

北海道立市民活動促進センターは、営利を目的としない、地域の様々な課題を自ら解決しようとする道内の市民活動を応援しています。

## 特集

## 道内で活躍する市民活動を紹介します

平成 24 年度の当センター事業で、道内で活躍している市民活動団体の活動を集録した「生きいきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2012」を作成しました。今回からその一部を抜粋して順次ご紹介いたします。

### しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ ～ 千歳周辺の自然を守り、伝える ～

「おっ、ヤマベがいたぞ」、「こっちはヤゴもいるよ」。千歳市のほぼ中央を流れる千歳川の支流・ママチ川で、夏、子どもたちのはじけるような歓声が響き渡る。つられて大人たちも小魚を追ってタモ網を片手に川中を右へ左へ。

これは同市の自然保護啓発団体「しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ」が、地元の人たちに身近な自然を知ってもらおうと行っている自然体験事業のひとつ。活動は支笏湖及びその周辺をフィールドに、毎春夏秋冬 1 年を通じて繰り返し広げられており、自然を体感し、楽しみ、守っていこうという意識を持つ住民の輪が着実に広がっている。



「あつヤマベがいたぞ」。水生昆虫の発見に歓声をあげる子どもたち

### ■ 自然を知り、守ろうで発足

千歳市は道央のオアシス・支笏湖を中心に山あり、川あり、湖ありの美しい自然を豊かに残す山紫水明の地。安らぎを求めて年間およそ 400 万人もの人が訪れることがそれを証明している。

ところが、そんなすばらしい自然が身近にあることを知っている住民は以外に少ない。そこで、地元の人たちにそうした貴重な自然を知ってもらい、楽しみながら、守ってゆこうとの意識を持ってもらおうと立ち上がったのが、千歳で自然保護にあたってきた日本、北海道両自然保護協会員で、自然保護観察指導員でもある宮本健市さん、中原直彦さんら 7 人の有志。自然の中に足を運び、そのすばらしさを体験してもらい狙いから「しこつ湖自然体験クラブ」と命名、愛称を「トゥレップ」とした。

トゥレップとはアイヌ語で「オオウバユリ」の意味。

### ■ 活動開始 参加者増加

発足当初は設立者 7 人がリーダーとなり、参加者を公募してまずは湖や川、周辺の動、植物観察会から。この参加で、それまであまり知らなかった自然と触れ合うことの楽しさや喜び、湖の生成や特異性、川の流域に息づく貴重な動植物の数々を知った住民は、口コミやホームページでそのすばらしさを家族や知人に伝え、それが契機となって催事への参加者

## 道内で活躍する市民活動を紹介～「しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ」

は次第に増加。また、もっと広く、深く味わいたいという面々はクラブの会員に登録していった。

クラブの活動は湖、川、山、湿原…と年々広がり、一般公募の参加者も増加の一途。参加範囲も、スタート時は地元千歳、恵庭だけだったのが苫小牧、札幌へと広がり、最近では東京から駆けつける親子連れも。男も女も、お年寄りから子供まで入り乱れて大にぎわいだ。

カヌーやキャンプ体験、川の水生昆虫観察会などは定員をオーバーして抽選会を開くほど。“親子連れ大歓迎”の姿勢も人気の秘密のよう。参加した人たちに感想を聞くと「すばらしかった」、「こんな身近にこんな美しい自然があったなんて知らなかった」、「この感激を家族や知人に広めたい」、「会員になって、もっともっと楽しみたい」など大感激。水生昆虫観察会でヤゴを捕まえた男の子は「川の中には色んな生き物がいるんだ。来年も是非くるよ」と目をキラ、キラッ。

### ■ 春夏秋冬 活動休みなく

春—バードウォッチング、サケの放流、台風で傷んだ森への植樹と下草刈り。

夏—川の水生昆虫観察会、湖、川周辺のゴミ拾い、湖・川でのカヌー体験、美笛でのキャンプ、外来害植物の駆除、川流域の鳥・動物観察。

秋—サケの回帰観察、飛来オジロワシ・オオワシ観察、トレッキング登山。

冬—スノーシュー（かんじき）を履いての雪原探索、冬ごもりの木の芽や小動物の足跡・ふん観察…と、一年を通してびっしり。

さらに観察対象が自然とあって危険との隣り合わせもあり、参加者の安全のために事前の下見調査を行うこともしばしばなので、大半が職を持つスタッフは休む間もない忙しさ。



スノーシューを履いて雪中探索を満喫する参加者たち

### ■ スタッフの志高く

こうした活動の運営費は会員の納める年会費千円と、時々発注がある自治体などからの自然調査委託費だけ。観察会参加は原則無料か実費なので、事務局の懐はいつもピーピー。スタッフの報酬はもちろんゼロで、観察現場へ行く際、参加者を分乗させてゆく車のガソリン代が支給される程度。それでもスタッフたちは「多くの人が身近な自然を知り、楽しみ、守りたいという気持ちを持ってくれば本望です」と屈託がない。

そんなクラブの目下の望みは、若いスタッフがもう少し増えてくれることと、参加者全員がまとまって一度に現地まで移動できる公的なバスがあればという思い。

会の活動について、現在代表を務める宮本健市さん（65）は「親に手を引かれてきていた子が大人になっても参加してきていて、私たちの、自然を慈しみ、守ってゆきたいという思いがしっかりと伝わっていると思うと本当に嬉しい。自治体や他のまちづくり団体ともうまく協調して活動できており、今後もその方向で歩んでいきたい。とにかく多くの人たち、とくに子供や若い人たちに気楽に自然に溶け込んでもらい、貴重な自然が守られてゆけばこんな幸せはありません」と熱い思いを語っている。

### ■ 連絡先

〒066-0055 千歳市里美 5-12-4  
しこつ湖自然体験クラブ\*トゥレップ  
代表 宮本健市  
事務局長 中原直彦  
TEL/FAX 0123-29-4233  
E-mail : stove-since1988@fork.ocn.ne.jp  
URL : <http://www.turep.net/>

## 道内で活躍する市民活動を紹介～「室蘭登別たたらの会」

## 室蘭登別たたらの会

## ～日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の普及に～

灼熱したマグマのような流動物が、1500℃に燃える炉の隙間から、ドロドロと流れ落ちる。

「これが、『ノロ』と呼ばれる不純物で、鉄の製造過程でできるのです」

日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」の普及を目指し、「室蘭登別たたらの会」を設立した石崎勝男さん（66）が説明する。



炉の隙間からマグマのようなノロが出る

ノロを出し切ると、次の段階に進む。今度は、レンガで造った高さ 1mほどの炉をハンマーで叩き壊す。内部で燃えている鉄を取り出す作業だ。

石崎さんが、ハンマーを打ち下ろすと、辺りの冷たい空気と炉内の高温とが混ざり合い「じゅわあ」と熱気が立ち上った。

砕けたレンガを掻き分けると、炎を放っている木炭とは明らかに違う別な塊が、真っ赤に燃えていた。

「これが、たたら製鉄で出来る鋳（けら）です。いわば、鉄のお母さんみたいなものですね」

そう、石崎さんが指差した。

「鋳は『金』（カネヘン）に『母』と書きます。炉の中で鉄ができるのは、母親のお腹の中で子供が大きくなるようなもの。ですから、鋳は昔から安産の

お守りにされてきたのですよ」

鋳の出来を確かめながら、石崎さんは笑顔を見せた。室蘭市輪西公園で行われた「アイアンフェスタ」の会場である。

アイアンフェスタとは、室蘭市の若手有志が、「鉄の町で、鉄を題材に何かやろう！」と 2004 年から始めたイベント。鉄と人との身近な関係を探ることをテーマに、たたら製鉄だけでなく、ものづくり体験やアート展示、鉄分を含んだ食品の試食会などが毎年行われている。

石崎さんは、このフェスタに毎年参加、たたら製鉄の実演をしている。

## ■ 地元の子どもたちに見せたい

石崎さんは、現新日鉄に 46 年間勤め、高温の炉の前で、耐熱服に身を包みながら作業を行っていた。以前から鉄に関心を持っており独自に研究していたが、10 年ほど前に、あるイベントでそうした鉄を目にする機会があり、一気に興味を持ったという。

つい 40 年ほど前まで、地元室蘭の砂鉄が広く利用されていたことを、もっと知らせたいと、2009 年から「たたらの会」を設立。まずは、地域の子供たちに見せるべきだと、自宅裏にたたら場を構え、鉄造りを独自に始めた。

「古来の製鉄法に興味を持っていて、退職したのを機に、もっとやってみようと思ひまして。特に、子供たちに見せてあげたいと思ひました。ここで生まれた子供たちに、見せられれば、この町の鉄の歴史について、何か少しでも心に残せるかもしれない」

さらに、室蘭工業大学の研究生に協力したり、小学校の特別授業で教えたり、アイアンフェスタなどのイベントで実演したりして、その活動の幅を広めていった。

（次頁へつづく）



## 道内で活躍する市民活動を紹介～「室蘭登別たたらの会」



小学校の課外授業で「たたら製鉄」を実演

2011年からは近所の有志を募り「室蘭・登別たたらの会」を設立。現在会員4人と少数精鋭だが、イベントや課外授業で年間十数回の実演を行うほか、室蘭市民活動センターで講習会や展示会なども実施、本格的に「たたら製鉄」の普及を行っている。

### ■ すべて地元の材料で製鉄

たたらとは、漢字で「踏鞴」（たたら）と書く。もともとは足で踏んで空気を送る大型の装置のこと。この装置を使った炉もたたらと称されるようになり、そうした製鉄法が「たたら製鉄」と呼ばれるようになった。

原料となる砂鉄は、室蘭のイタンキ浜で採取、磁石を使って何度も選別するという。炉を造るための粘土も地元の浜で採り、木炭は白老のナラ材（どんぐりの木）を利用する。材料を集め終わると、その次は炉を造る。レンガを積み上げて、その内側に粘土を塗り込み、乾燥させて固めるまで、丸一日。

炉が出来上がると、まず炉を3時間ほど空焚（からだ）きして、炉内の温度を上げる。その後、中に木炭と砂鉄を交互に入れ、5～6時間は焼き続けて、砂鉄を溶かして鉄を作り出す作業を行う。

そして、ふいごで風を送って、炉内を千数百度まで加熱。レンガ炉の上から燃え上がってくる炎の色

を目安にして、炉の中の温度を調節する。このため、火がよく見える夜間がやり易いようだ。

ドロドロとしたマグマのようなノロを出して、最後に炉を壊す。中で精製されるのが鉞であり、アイアンフェスタのときには9キロの鉞が出来たとのこと。その鉞の塊が冷え、切断すると、その断面は銀色に輝くという。

「品質の良い鉞は玉鋼（たまはがね）として、日本刀の材料になります。ただ、これで私が日本刀を作ってしまったら、違法となってしまうので……、小さい包丁やペーパーナイフなどなら大丈夫ですから」と、苦笑する。

### ■ 出来たての鉄の輝きが魅力

「たたらでは、必ず鉄が出来ると限りません。炉を壊して開けてみるまで分からないのです。それに、一つ一つ同じ鉄は出来ません。だからこそ面白くて、取り出すときの緊張感や期待感、出来たての鉄の輝きがたまりませんね」

出来の良いものや、ユニークな形の鉞は、イベントで展示するために名前を付けているという。

### ■ 連絡先

〒059-0024 登別市緑町 2-13-17  
室蘭登別たたらの会  
代表 石崎勝男  
TEL/FAX : 0143-85-1179

今回ご紹介しました「活いきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2012」は、当センターのホームページで閲覧することができます。

なお、「市民活動レポート 2011」も掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>

# センターインフォメーション

## ◆当センターの事業等のお知らせ◆

### ●NPO 法人設立基礎講座●

「市民活動の基礎からNPO法人設立までを一緒に学びませんか」

コミュニティづくりやボランティア活動、NPOなどの市民活動に関心のある方やNPO法人設立を考えている方などを対象に「NPO法人設立基礎講座」を開催します。

本講座は、市民活動の基本的な知識からNPO法人設立に必要な手続きや申請書類等について学びます。

■日 時：平成25年 9月26日(木)14:00~16:00  
平成25年12月14日(土)14:00~16:00  
平成26年 2月28日(金)18:00~21:00  
◎各日程同一内容です。ご都合の合う日程でお申し込み下さい。

■場 所：「かでる2・7」(札幌市中央区北2条西7丁目)1040会議室

■内 容：講義

「NPOの基礎知識とNPO法人設立に必要な要件や申請手順のポイント」  
講師 東田 秀美さん  
(NPO法人旧小熊邸倶楽部理事長)

■参加料：300円

■定 員：30名(先着順とします)

■対象者：市民活動に関心のある方  
市民活動実践者  
NPO法人設立を考えている方

■主 催：道立市民活動促進センター

当センターのホームページで情報発信中の「北海道市民活動団体情報提供システム」がまたまたリニューアルしました。

「北海道市民活動団体情報提供システム」は、道内のNPO法人と市民活動団体の情報を提供しています。

当センターのホームページトップ画面の画像下の「北海道市民活動団体情報提供システム」をクリックしてください。

### 【検索機能】

- ・団体名、活動分野、地域、キーワードによる市民活動団体の情報検索が可能です。
- ・NPO法人の定款、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書/収支計算書の閲覧が可能です。
- ・各団体のイベント情報、ボランティア募集情報の閲覧が可能です。

### 【登録すると】

- ・団体の活動やイベント、ボランティア募集等の情報発信ができます。
- ・どこからでもログインして情報(イベント・ボランティア募集情報等)の入力・編集が可能です。

## 平成25年度「市民活動推進アドバイザー」

当センターでは、道内の市民活動支援センターから推薦を受けて「市民活動推進アドバイザー」を各市民活動支援センターに設置しています。

それぞれの地域でボランティアやNPO等の市民活動に関する相談にお応えしておりますので、ご紹介いたします。

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| ・成田 裕之氏：江別市民活動センター・あい      | ☎ 011-374-1460 |
| ・谷口 真貴氏：函館市地域交流まちづくりセンター   | ☎ 0138-22-9700 |
| ・向平 春美氏：函館市青年センター          | ☎ 0138-51-3390 |
| ・石崎 勝彦氏：室蘭市市民活動センター        | ☎ 0143-25-7070 |
| ・伊藤 蛍氏：旭川市市民活動交流センターCoCoDe | ☎ 0166-74-4151 |
| ・大泉 有希氏：NPO法人北見NPOサポートセンター | ☎ 0157-22-2055 |
| ・杉田美由紀氏：釧路市民活動センターわっと      | ☎ 0154-22-2232 |

## ◆ 助成金情報 ◆

### ●公益財団法人損保ジャパン記念財団● 2013 年度社会福祉事業 (自動車購入費助成)

損保ジャパン記念財団は、障害の有無にかかわらずすべての人が地域の中で、ともに支えあいながら暮らすことのできる社会づくりの一助となるべく、2013 年度の「自動車購入費助成」を行います。

#### ■助成対象団体

下記の(1)~(3)のすべてを満たしていること。

- (1) 募集地域：東日本地区に所在する団体
- (2) 助成対象者：特定非営利活動法人、社会福祉法人
- (3) 助成対象事業：主として障害者の在宅福祉活動を行う団体※ただし、加齢に伴う障害者（高齢者）の在宅福祉活動団体は除きます。

#### ■助成金額

自動車購入費 1 件 100 万円まで（総額 1,000 万円）

#### ■応募期限：2013 年 7 月 31 日（水）

#### ■応募先：公益財団法人損保ジャパン記念財団

TEL：03-3349-9570

FAX：03-5322-5257

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://www.sj-foundation.org/>

### ●パナソニック株式会社●

### Panasonic NPO サポート ファンド 2013 年募集

Panasonic NPO サポート ファンドは、社会課題の解決促進に向けて、国内で先進的な取り組みを展開する NPO や、新興国・途上国で活動する NGO が、第三者の多様で客観的な視点を取り入れて実施する組織基盤強化の取り組みを応援します。具体的な組織基盤強化の取り組みの前に、組織課題を抽出し解決の方向性を見出すために行う「組織診断」も応援します。

#### ■助成対象団体

〔環境分野〕

環境問題に取り組み、強い市民社会の創造を目指す NPO/NGO（NPO 法人・任意団体・財団法人・社団法人など）

〔子ども分野〕

子どもたちの健やかな育ちを応援する新しい社会づくりを目指し、先駆的な活動と組織の自己変革に挑戦する NPO/NGO

#### ■助成対象事業

第三者の多様で客観的な視点を取り入れた組織基盤強化の一連の取り組みを最長3年まで応援します。

#### ■助成金額

1 団体への上限 200 万円

#### ■応募期限：2013 年 7 月 31 日（水）必着

#### ■応募先

パナソニック株式会社 ブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化グループ

TEL：03-3574-5665

FAX：03-3574-5690

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://panasonic.co.jp/citizenship/pnsf/>

### ●NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド● 2013 年度ドコモ市民活動団体への助成 (環境分野) 募集

#### ■助成対象団体

- (1) 日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体で NPO 法人等の法人格を有するもの、または取得申請中の団体で 10 月末までに法人登記が完了見込みの団体。  
なお、活動実績が2年以上であること
- (2) 複数の団体が連携した協働事業の場合、代表申請団体が(1)の要件を満たしていることが条件

#### ■助成対象活動

- 「環境を守る」をテーマに、これからの地球や地域の環境のためになる次のような活動
- (1) 省エネ、再生可能エネルギー導入の推進など、低炭素社会の実現に向けた活動
  - (2) リデュース・リユース・リサイクルなど、循環型社会を形成するための活動
  - (3) 森林管理、里地・里山づくり、希少生物の保護など、地域の生物多様性の保全に繋がる活動
  - (4) 化学物質・有害物質対策により地域住民の安心・安全を確保する活動
  - (5) 環境教育や環境情報の発信など環境コミュニケーションを促進する活動
  - (6) 上記(1)から(5)以外で「環境を守る」という視点に立った活動テーマに相応しい支援活動

#### ■助成金額

1 団体あたり 50 万円を標準とし、最高 100 万円まで

#### ■応募期限：2013 年 7 月 31 日（水）必着

#### ■応募先：NPO 法人モバイル・コミュニケーション・ファンド（MCF）

TEL：03-3509-7651

FAX：03-3509-7655

※ 詳しくは、次のホームページをご参照下さい。

<http://www.mcfund.or.jp/>

### 当センターでは、市民活動に関する 疑問・質問に相談員がお答えしています。

「NPOって何ですか?」「ボランティア募集の情報を知りたい」「助成金に関する情報を得るにはどうしたらいいの?」「市民活動団体の運営についてアドバイスを受けたい」「現在の活動団体をNPO法人化したい」など、市民活動に関わる相談にお答えします。

来館または電話、FAX、メールなどで、お気軽にご相談下さい。

・TEL：011-261-4440

・FAX：011-251-6789

・E-mail：center@do-shiminkatsudo.jp

今回の掲載情報以外の助成金情報や北海道庁からの役立つ情報なども随時更新中です。ぜひアクセスして下さい。

◎ 北海道立市民活動促進センターのホームページ

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>